
お使い『魔法使い』

月想い

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

お使い『魔法使い』

【Nコード】

N5254X

【作者名】

月想い

【あらすじ】

魔法使いは本来『神の使い』だった

その本分を忘れたモノ達にお仕置きをしようとする『神』と『魔法使い』のお話

『魔法使い』とは

『神』とは不可思議なチカラでその土地を守護するものモノ達の総称であり、その土地を統べるモノ達の事である。

『神』は時には雨の降らないときは雨を降らし、妖怪などが蔓延ればそれらを滅した。『神』はその土地に住まうモノ達を守り、時には警告を与えることによってその土地を栄えさせてきた。

しかし『神』のチカラは協力で直接チカラを使えば守るべき土地を傷つけてしまう。そこで『神』たちの多くは自らの『代行者』を選び彼らを使い土地にチカラを行使し続けた。

始めはそれでよかった。不可思議なチカラに人々は恐怖し、恐怖は憧れに変わり、そして尊敬と変わっていった。けれど人は良くも悪くも自らと違うものを受け入れるのは難しい生き物である。次第に『代行者』達は歴史の表舞台から姿を消し、今私達が見ることができるのは形骸化した姿だけである。

けれど『神』が世界から消えた訳ではないし『代行者』もまたその役目を忘れた訳ではなかった。

彼らは世界の裏から己の役目を今でも果たしているのである。

そして私たち人は彼ら『代行者』達のことを神官や巫女、そして『魔法使い』と呼んでいるのだ。

使命

彼女が意識を取り戻したとき、彼女は自信の意識がなかった事に恐怖した。

なぜなら彼女の名は『天照大御神』、日本国における最高神であり主神である彼女は神であるからだ。

神である彼女が意識を失うなど普通ではありえない、しかし今まで彼女は意識を失っていた。それはつまり誰かが彼女の意識を失わせたということに他ならない。

神であり日本で最も霊格の高い彼女の意識を刈り取ることできる者として可能性が高いのが他の国の主神級の霊格を持った神なのだが、その神たちも普段は自国の管理・調整に忙し

く他国の神に手を出す余裕があるとは思えない。

ならば残るのが超一流の憑代、つまり霊能力者や魔法使いといった人間が集団で彼女に干渉したということだが何故彼女の意識を奪ったのかその理由がわからない。

彼女が意識を失うということは日本という国全体で彼女の霊的庇護を受けられなくなるということである。神の加護が失った土地には多くの厄災が降りかかることになる。それはどん

な神であつても変わらないのだが天照程の神の庇護が得られなくなったということは事によると国の存亡にまで関わってくる。

(っ！考えているだけじゃ何も解決はしないわね。まずは土地に異常がないかどうか確認をしないと……)

彼女はひとまず自分の身に起こったことの原因の追究を諦め、自身の本分である土地の管理に目を向けることにする。

どうやら彼女が気を失っていたのはおおよそ百年であり、それ程の期間自分の庇護下から抜け出して日本という国がどうなってしまったのか気が気ではなかったのだ。

(どうやら、思いのほか国は荒廃していない様ね。最悪国が滅んでいた可能性もあったけど不幸中の幸いと言ったところかしら)

最悪の事態だけは避けられたようで彼女はほっと胸を撫で下ろしながらも何処か異常がないかを確認しているとある場所で地脈が乱れているを発見した。

(あら？関東全土に流れるべき地脈が一か所に集中してる？……何っあの大きい木は！？あんな物あそこに生やした覚えはないわよ！？ そうかつ、あれが地脈のエネルギーを吸い取

っているせいで関東の地脈が歪んでいるのね！ 一体関東の者たちは何をしているのかしらあんな物を放置しているなんて……)

「これは一度話を聞かなければいけないかしらね？ カラス！！ カラスは何処に!?!」

彼女はあの土地の管理を任している者たちの話を聞く必要があると判断し、その者達への使いをやる者の名を呼ぶ。すると先ほどまで誰もいなかったはずの場所に一人の青年が佇んでいた。

「はいはい姫様。あなたのカラスはここにいますよ。しかしお久しぶりですね、かれこれ百年ちょっとでしょうか？」

「……あなた私がないこと知ってたの？」

思いがけないカラスと呼ばれた青年のセリフに天照は多分聞き間違いだらうと彼に聞き返したが

「ええ。知ってましたが何か？」

と答える彼の言葉に天照は怒鳴った。

「あなた！自分の主が百年も姿を見せないことに少しぐらい不審に思ったりはしなかったわけ！？ 私は今まで気を失っていたのよ！異常事態でしょう！？ しかもそのせいか地脈の

一部は歪んでしまってるのよ！？ もしあなたが気づいた時点で私の意識を戻していたらこんな事態にはなっていなかったかもしれないのに、それを『知ってましたけど、何か？』です

つて？ よくもまあそんな言葉が言えたことね！！！」

天照はカラスの職務怠慢に対して文句を言うのだが言われたカラスの方はと言えばどこ吹く風といった具合で飄々としていた。

「いや、私としては姫様はまた引き籠りになってしまったのかと思っていたんですけどね。一応他の者にも姫様がないことは伝えはしたんですけど、ほとんどが『あ、またか』とい

った反応でして……」

まさか他の神たちも主神たる自分がいないことを知った上での放置であったとは思わず天照は頭を抱えた。いくら彼女に前歴があるとはいえあまりな対応でないかと思うのだが、過ぎ

てしまった事を何時までも考えてもしようがないことなので先に要件をカラスに伝える事にした。

「その事に関しては皆とよく話し合う必要があるようですけど、とりあえずはカラス、あなたに命めいを与えます。関東の地脈に異常があり、その原因として巨大な木が地脈の工

ネルギーを吸い取っているようです。ですからあなたはその原因を取り除き地脈を正常に戻してきなさい。もし手が必要であればあちらの者たちを使っても構いません。いいですね？」

「わかりました。その命めい謹んでお受けいたします。ところで私は何処までやっていいんですか？」

「極力あちらへ与える影響は小さく下さい。けれどあなたが必要であると判断すれば直接顕現することも許可します」

天照の言葉カラスは驚いた。神が現世に直接顕現することはほとんどない。理由としては神の放つ神気に世界が少くない影響を受けるからである。その影響は実際に顕現した神にも

わからず、事によると国を揺るがす一大事にも発展しかねない。

しかし今回天照は顕現することも厭われないと言っからには余程の事が関東で起こっているのだろう。

「わかりました。さっそく前世に行き、原因の排除を行います」

面倒なことになりそうだとカラスは思いながら現世へと降りて行った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5254x/>

お使い『魔法使い』

2011年12月15日02時49分発行